

VII 新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業

1. 新型コロナウイルス感染症対応看護職員等人材調整事業

1) 目的

新型コロナウイルス感染症に対応する看護職員の人材不足により医療機関等内での人材調整で対応することが困難な場合や臨時の医療施設や酸素ステーション新設等、受入側のニーズに沿った地域や広域における、緊急的な看護職員の人材確保の体制構築を図ることを目的とする。

なお、本事業は、「新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業実施要綱」(令和4年1月28日付け医政発0128第10号)に基づき実施するものである。

2) 委託元

- (1) 県内人材調整事業:愛知県
- (2) 広域人材調整事業:公益社団法人日本看護協会

3) 期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

4) 事業内容及び実績

(1) 協会内の人材派遣調整体制の構築

① 人材調整コーディネーターの配置

令和4年4月から非常勤職員として看護師を1名雇用

② 人材調整コーディネーターの役割

- ・クラスター発生時を含む県内・広域の看護職員の人材調整業務
- ・応援派遣可能者リストの作成・管理
- ・応援派遣に関する広報・周知

(2) 応援派遣体制の整備

① 派遣スキームの作成

愛知県医務課と話し合い(5月、7月)、派遣スキーム(資料)を作成した。

② 応援派遣の目的と派遣先に応じた応援派遣看護職員

区分	目的		派遣先等		応援派遣看護職員
クラスター派遣	クラスターが発生した場合、通常の体制への早期復帰を支援	第1陣 先遣活動	県内	医療機関	感染管理認定看護師
				福祉施設	
		第2陣 看護応援活動		医療機関	地域災害応援ナース
				福祉施設	協会非常勤看護職員(プラチナナース)

看護師人材確保支援	感染拡大期における緊急的な看護職員の人材確保	県内	医療機関	地域災害応援ナース
		県外	医療機関	「新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 軽症～中等症患者対応研修(一般病棟、入院待機施設)」の受講者
		県内・ 県外	臨時の医療施設、 酸素ステーション	
		県外・ 県内	宿泊療養施設	e ナースセンターに登録しているコロナ事業協力者、「スキルアップ研修」受講者、「新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 自宅療養者対応研修」受講者

③ 応援派遣に対応する看護職員の確保と育成

ア クラスターが発生した福祉施設等から看護応援活動の要請があった場合等に、タイムリーに対応するため、令和4年8月から、応援派遣看護師として非常勤職員(プラチナナース)5名を雇用した。

イ 看護応援活動における応援派遣看護師の活動の手引き書の作成(資料)

ウ 雇用した応援派遣看護師を対象に、新型コロナウイルス感染症の基礎知識や感染対策について、研修を実施した。

エ 高齢者施設への看護応援活動の応援派遣後(令和4年11月)に、振り返りの会を開催した。

④ 応援派遣人材に関する関係機関等への周知・事前依頼

地域災害応援ナース登録施設 77 施設へ事業の周知と協力依頼 8月

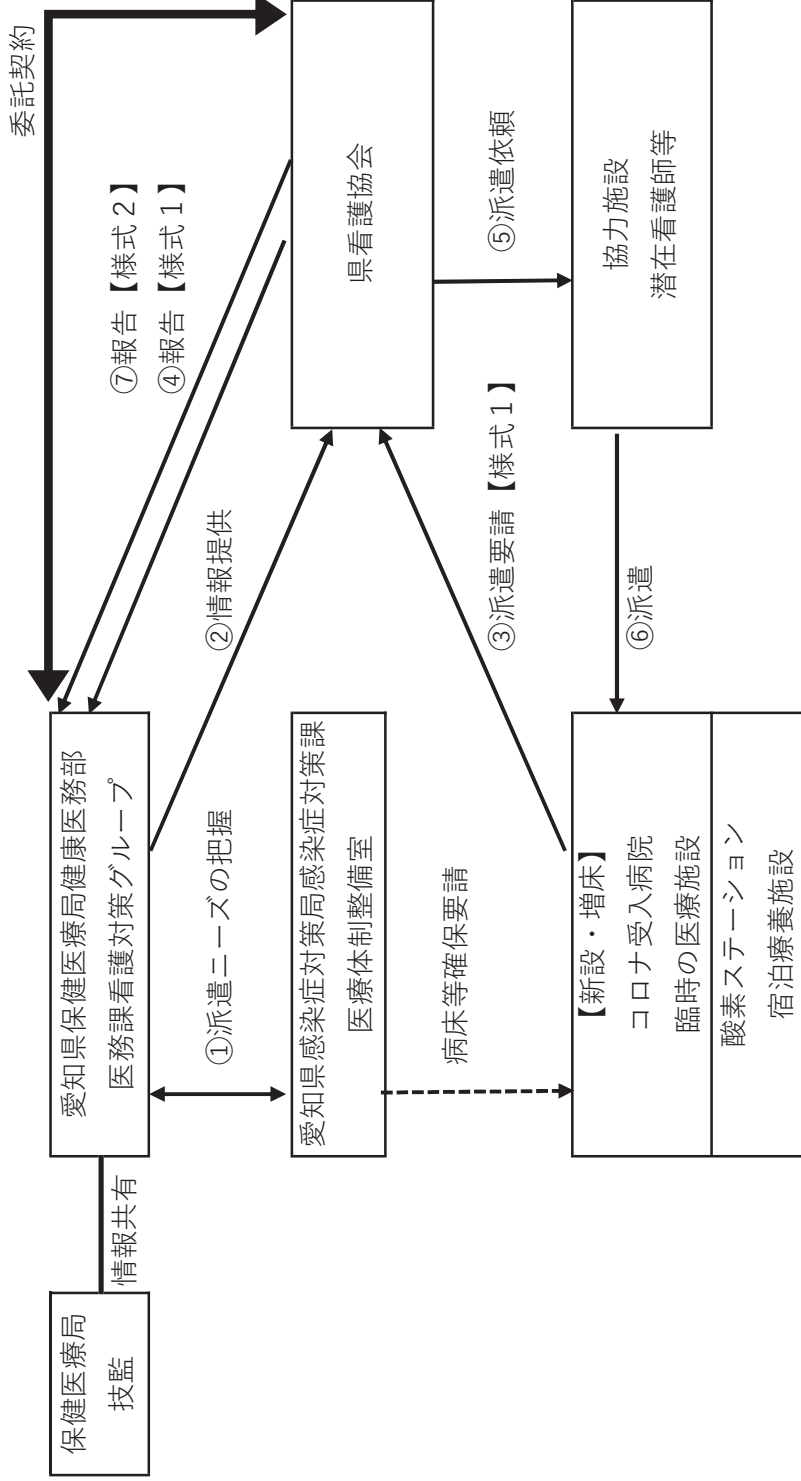
(3) 派遣調整実績

県をまたぐ広域調整の要請はなかった。

県内の派遣調整の実績は以下のとおりである。

- ① クラスター発生施設(医療機関)応援派遣 第1陣先遣活動:派遣依頼件数 18 件⇒派遣件数 18 件
- ② クラスター発生施設(福祉施設等)応援派遣 第1陣先遣活動:派遣依頼件数 95 件⇒派遣件数 95 件
- ③ クラスター発生施設(福祉施設)出向 第2陣看護応援業務:派遣依頼件数 15 件⇒派遣件数 1 件

コロナ病床増床等による看護職員派遣スキーム
 (新型コロナウイルス感染症対応看護職員人材調整支援事業)



※クラスター発生時の看護職員等派遣要請については、「新型コロナウイルス感染症のクラスター発生時の看護職員等・医療体制緊急確保チーム派遣スキーム」によること

看護応援活動における応援派遣看護師の活動

【応援派遣の基準】

(1) 高齢者施設等

施設が看護職を必要としていること（介護職員の不足を補うものではない）

- ①看護職が休職し、1人もいない場合
- ②看護職は雇用していないが、施設内療養継続のため看護職が必要な場合
- ③施設内療養継続のため、看護職が不足する場合

(2) 医療機関

看護職が不足し、院内の業務調整・人員調整で対応ができない場合

【看護応援業務の内容】

原則としてグリーンゾーンでの看護応援活動

<業務の例>

- ・管理者の施設運営に関するサポート
- ・利用者の見守り、嘱託医等への連絡調整
- ・利用者の健康管理、服薬介助、処置・診察の介助
- ・環境整備（環境清拭の実践、感染対策の助言等）
- ・職員・利用者の健康相談、心のケア
- ・その他、施設の要望を踏まえた活動

【応援派遣の要否】

原則として、第1陣派遣後にその情報を踏まえて、看護応援活動の要否、及び派遣する場合は、活動エリア、業務内容、活動期間等を決定する。

第1陣の希望がない場合は、県又は施設に電話等で施設の感染者・濃厚接触者の状況、感染対策（ゾーニングを含む。）の状況を聴取した上で、看護応援活動の要否、及び派遣する場合は、活動エリア、業務内容、活動期間等を決定する。（感染対策に問題があれば、第1陣の派遣要請を勧める）

【応援派遣看護師の活動】

1 平時の準備

- ①健康観察（毎日）：健康観察票に記入
- ②看護協会に出勤（月2回）
 - ・応援派遣に備えた研修受講
 - ・協会内での研修
 - ・報告書の作成、活動の振り返り
 - ・その他

2 応援派遣決定後の準備

- ・応援派遣に向けた自身の他の仕事や家族内の調整
- ・応援派遣先までの通勤方法の確認
- ・遠方等の理由で通勤が困難な場合は、看護協会の了解を得た上で宿泊先を確保
- ・応援派遣先での活動エリア、応援業務内容等を確認

3 応援派遣先での活動

(1) 派遣の心構え

感染拡大が起きている施設の管理者をはじめ現場の職員と連携して、看護応援活動を推進していただくために、以下のことに留意する。

- ①施設の意向や大切にしたい事柄をふまえて活動する
- ②施設の特性や組織体制を理解して活動する
- ③施設の職員に寄り添った配慮ある行動を心がける
- ④与えられた役割の中で、必要な活動を考えて行動する
- ⑤施設の職員と共に具体的に検討して行動する
- ⑥チームワーク、協調性を大切にす
- ⑦自分の経験や研修受講などから得た知識・技術をふまえて活動する
- ⑧自分の健康安全管理に留意する
- ⑨施設で知りえた情報は守秘する

(2) 応援派遣看護師の業務

- ①第1陣への同行（第1陣の派遣がない場合や同行しない場合もある）

- ・看護応援活動の要否判断に必要な情報収集
- ・感染対策の確認（チェックリスト）
- ・看護応援活動要否検討への参画

- ②看護応援活動

- ・感染対策状況の確認（チェックリスト）
- ・事前に調整した活動エリアにおける業務を実践
- ・その他、必要に応じた業務
- ・感染対策で不安や疑問点がある時

第1陣の派遣あり：施設の管理者等から1陣の感染管理認定看護師に相談するように促す。

第1陣の派遣なし：協会に連絡し、看護協会の感染管理認定看護師に相談

- ・その他、判断に迷う場合等は、看護協会の専用電話に連絡する。

(3) 活動報告

- ・毎日、勤務終了後、看護協会の専用電話に勤務終了を報告
- ・応援派遣終了後、速やかに様式1「看護活動業務報告書」を提出する。

(4) その他

- ・応援派遣中は、毎日健康観察を行う。
- ・体調不良等により出勤できない場合は、派遣先及び看護協会に報告する。
- ・ユニフォーム：施設からの貸与がない場合は、ポロシャツ、ズボン等活動しやすい服装とする。着衣は帰宅後すぐに通常の洗濯をする、もしくはビニール袋に密封し72時間後に通常の洗濯をする。
- ・靴：持参する。
- ・PPE：原則として派遣先施設で用意する。（サージカルマスクは一部看護協会での用意）
- ・名札・名刺：看護協会での用意
- ・傷害保険・賠償責任保険：

4 応援派遣終了後

- ・健康観察
- ・抗原検査の実施（無症状で本人が特段希望しない場合は省略可）
- ・セルフケア（ストレス対策）

2. 新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業

1 目的

この事業は、新型コロナウイルス感染症に対応するために必要な知識や技術を身につけた看護職員の養成をし、新型コロナウイルス感染症の対応が可能な看護職員の人材確保を目的とする。

2 事業内容

新型コロナウイルス感染症に対応するための看護職員向け研修として、次の3つを実施した。

1) 重症者対応研修

- ・講義については、日本看護協会が行う新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 研修準備事業としてeラーニング受講受付の業務委託を受けて実施(オンデマンド)
- ・演習については愛知県からの委託により対面で実施(同一内容を2回実施)

2) 軽症～中等症対応研修(自宅療養者用)

- ・愛知県からの委託を受けて対面またはZoomリアルタイム配信で実施(講義・演習)
- ・6月～8月の間に同一プログラムでの研修を3回実施

3) 軽症～中等症対応研修(一般病棟・入院待機施設用)

- ・日本看護協会が行う新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 研修準備事業として、eラーニング受講受付の業務委託を受けて実施(オンデマンド講義のみ)

3 実施状況

【重症者対応研修】

1) 研修目的 新型コロナウイルス感染重症者の救命に用いる人工呼吸器及び体外式膜型人工肺(ECMO)に対応するにあたり、事前に備えておくべき知識・技術を習得させる。

2) 学習目標

- (1) 新型コロナウイルス感染症に関する基礎知識を習得する。
- (2) 新型コロナウイルス感染重症患者に対応できる知識・技術を習得する。
- (3) 人工呼吸器及びECMO 管理・ケアの方法を学ぶ。
- (4) 機器装着中患者の感染防止対策の方法を学ぶ。

3) 方法及び開催日時

オンデマンド研修 (視聴可能期間)	令和4年5月9日(月)～令和4年8月19日(金) * 演習日まで視聴	300分
演習(開催場所:名古屋大学メ ディカルXRセンター)	1回目 令和4年8月6日(土)9:30～16:30 2回目 令和4年8月20日(土)9:30～16:30	360分

* 申込期間 令和4年5月9日(月)～令和4年7月4日(月)

4) 対象者

愛知県内に在住または就業する看護職であり、集中治療室等において新型コロナウイルス感染症重症患者への対応を行う可能性のある看護職員

5) 受講料 無 料

6) 内容及び講師

(1) オンデマンド研修

	単元/主な内容	講師(所属等)	視聴時間
1	新型コロナウイルス感染症の基礎知識	大曲 貴夫(国立国際医療研究センター国際感染症センター長・感染症内科医長)	60分
2	新型コロナウイルス感染症の集中治療管理	則末 泰博(東京ベイ・浦安市川医療センター救命集中治療科・集中治療部門部長・呼吸器内科部長)	60分
3	重症患者の看護 (人工呼吸器管理、ECMO、口腔ケア等)	卯野木 健 (札幌市立大学)	60分
4	患者家族への精神的なケア (隔離による不安、意思決定支援、看取り等)	立野 淳子 (小倉記念病院看護部クオリティマネジメント科 科長)	30分
5	新型コロナウイルス感染症の感染対策	美島 路恵(東京慈恵医科大学附属病院感染対策部 感染管理認定看護師)	30分
6	生命維持装置の管理(ネーザルハイフロー人工呼吸器、ECMO、CHDF 等)	三木 隆弘(日本大学病院)	60分
	確認テスト		—

(2) 演習

会場:名古屋大学メディカル XR センター

単元	主な内容	講師
1. 人工呼吸器の基礎知識	1)人工呼吸器の役割	加藤孝昭 (名古屋大学医学部附属病院 医療技術 部臨床工学・歯科部門)
	2)人工呼吸器の構造	
2. 人工呼吸器の準備	1)人工呼吸器回路の組み立て(実技)	
	2)開始前の人工呼吸器の点検(実技)	
3. 人工呼吸器装着中の機器管理及びトラブル発生時の対応	1)人工呼吸管理中のリークチェック(実技)	
	2)起こりやすい異常と対応	
4. 気管挿管管理	1)気管挿管管理目的・適応	木本将徳、諏訪亮、比嘉和也、後藤真希(名古屋大学医学部附属病院)
	2)気管挿管看護 COVID 患者の気管挿管、気管挿管準備、気管挿管介助、カフ圧の管理、気管チューブの固定(実技)	
5. ECMO 管理	1)ECMO の基礎知識	長谷川静香 (名古屋大学医学部附属病院 医療技術 部臨床工学・歯科部門)
	2)ECMO の管理(実技)	
6. 人工呼吸器とECMO 装着中の看護	1)人工呼吸器・ECMO 装着中の観察ポイント 2)看護ケアのポイント	高岡亜紀子 (名古屋大学医学部附属病院 集中ケア 認定看護師)

【使用機器名および台数(1 回に付き)】

1回目 人工呼吸器:4台 ECMO:4台 その他(レサシアンシミュレータ PLUS 2台)

2回目 人工呼吸器:4台 ECMO:4台 その他(レサシアンシミュレータ PLUS 2台)

7) 受講者及び修了者

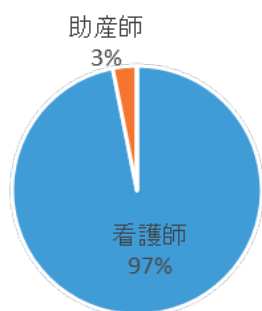
	申込者数(名)	受講決定者数(名)	演習受講者数(名)	修了者数(名)
1回目	20	19	16	16
2回目	21	21	16	16

8) 修了者の概要

※ 以下の表・グラフのデータは2回分を合わせて表示

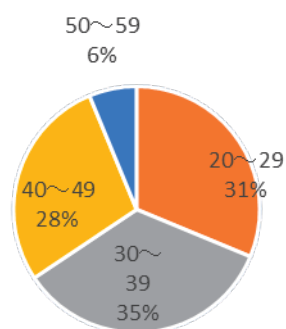
【職種】

職種	人数	%
看護師	31	97
助産師	1	3
保健師	0	0
准看護師	0	0



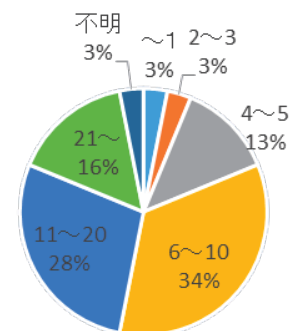
【年齢】

年齢	人数	%
～19	0	0
20～29	10	31
30～39	11	35
40～49	9	28
50～59	2	6
60～	0	0



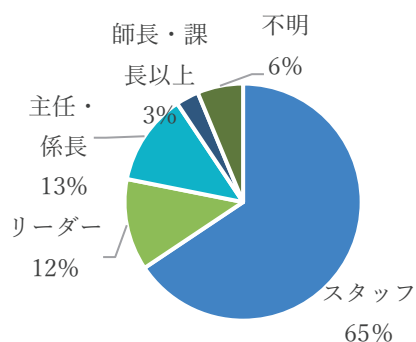
【経験年数】

経験年数	人数	%
～1	1	3
2～3	1	3
4～5	4	13
6～10	11	34
11～20	9	28
21～	5	16
不明	1	3



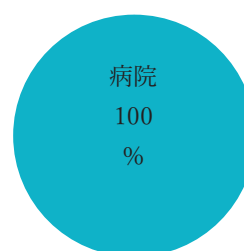
【役割】

役割	人数	%
スタッフ	21	65
リーダー	4	13
主任・係長	4	13
師長・課長以上	1	3
不明	2	6



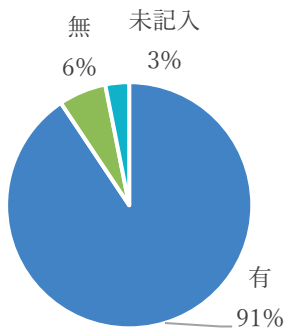
【施設の種類の種類】

施設種類	人数	%
病院	32	100
診療所	0	0
介護施設	0	0
ステーション	0	0
その他	0	0



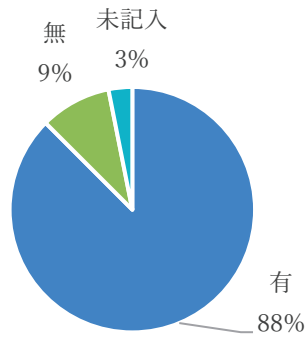
【新型コロナ患者への看護経験】

看護経験	人数	%
有	29	90.6
無	2	6.3
未記入	1	3.1



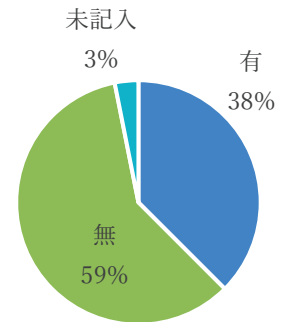
【人工呼吸器管理の経験】

管理経験	人数	%
有	28	87.5
無	3	9.4
未記入	1	3.1



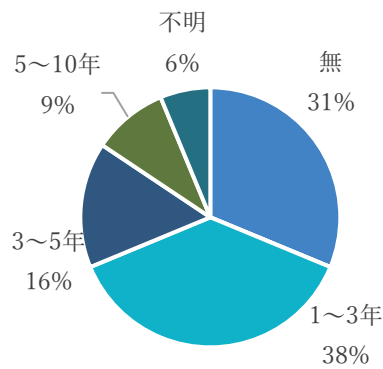
【ECMO 管理の経験】

管理経験	人数	%
有	12	37.5
無	19	59.4
未記入	1	3.1



【集中治療室の勤務経験年数】

経験年数	人数	%
無	10	31.3
1年未満	0	0.0
1～3年	12	37.5
3～5年	5	15.6
5～10年	3	9.3
不明	2	6.3



9) 研修風景

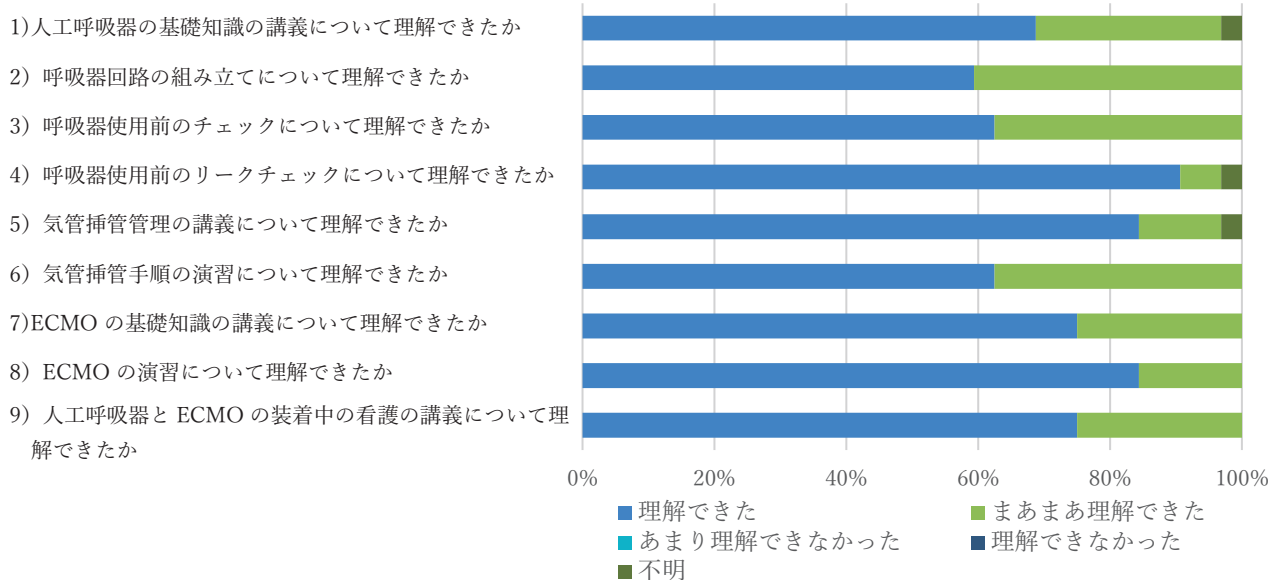


10) アンケート

(1) 受講到達度

人数(%)

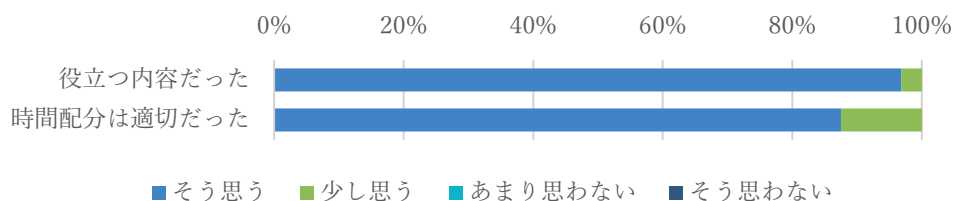
設問	理解できた	まあまあ理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	不明	計
1)人工呼吸器の基礎知識の講義について理解できたか	24(75.0)	8(25.0)	0(0)	0(0)	0(0)	32(100)
2)呼吸器回路の組み立てについて理解できたか	27(84.4)	5(15.6)	0(0)	0(0)	0(0)	32(100)
3)呼吸器使用前のチェックについて理解できたか	24(75.0)	8(25.0)	0(0)	0(0)	0(0)	32(100)
4)呼吸器使用前のリークチェックについて理解できたか	20(62.5)	12(37.5)	0(0)	0(0)	0(0)	32(100)
5)気管挿管管理の講義について理解できたか	27(84.4)	4(12.5)	0(0)	0(0)	1(3.1)	32(100)
6)気管挿管手順の演習について理解できたか	29(90.6)	2(6.3)	0(0)	0(0)	1(3.1)	32(100)
7)ECMOの基礎知識の講義について理解できたか	20(62.5)	12(37.5)	0(0)	0(0)	0(0)	32(100)
8)ECMOの演習について理解できたか	19(59.4)	13(40.6)	0(0)	0(0)	0(0)	32(100)
9)人工呼吸器とECMOの装着中の看護の講義について理解できたか	22(68.8)	9(28.1)	0(0)	0(0)	1(3.1)	32(100)



(2) 研修会評価

人数(%)

	そう思う	少し思う	あまり思わない	そう思わない	計
役立つ内容だった	31(96.9)	1(3.1)	0	0	32(100)
時間配分は適切だった	28(87.5)	4(12.5)	0	0	32(100)



11) 資料 開催要領とちらし

新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 重症患者対応研修 プログラム

研修方法:オンデマンド配信研修 + 演習

● 講義(オンデマンド)

章	単元／主な内容	講師(所属等) ※敬称略	目安時間
1	新型コロナウイルス感染症の基礎知識(共通)	大曲 貴夫 (国立国際医療研究センター国際感染症センター長・感染症内科医長)	60分
2	新型コロナウイルス感染症患者の集中治療管理	則末 泰博 (東京ベイ・浦安市川医療センター救急集中治療科・集中治療部門部長・呼吸器内科部長)	60分
3	重症患者の看護 (人工呼吸器管理、ECMO、口腔ケア等)	卯野木 健 (札幌市立大学)	60分
4	患者家族への精神的なケア (隔離による不安、意思決定支援、看取りなど)	立野 淳子 (小倉記念病院看護部 クオリティマネージメント科 科長)	30分
5	新型コロナウイルス感染症の感染対策	美島 路恵 (東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策部 感染管理認定看護師)	30分
6	生命維持装置の管理 (ネーザルハイフロー、人工呼吸器、ECMO、持続的血液濾過透析(CHDF)等)	三木 隆弘 (日本大学病院)	60分
-	確認テスト		-

● 演習

章	単元／主な内容	講師(所属等) ※敬称略	目安時間
1	演習(呼吸器回路組み立て、使用前チェック、リークチェック、トラブル発生時の対応)	小山富生 (名古屋大学医学部附属病院 臨床工学技術部)	165分
2	演習(ECMO装着中の管理、トラブル対応)		80分
3	演習(気管挿管介助、人工呼吸器・ECMO装着患者の日常的な看護ケア)	高岡亜紀子 他 (名古屋大学医学部附属病院 集中ケア認定看護師)	110分

【注意】 オンデマンド研修受講前に、愛知県が提供する新型コロナウイルス感染症に関する情報を愛知県看護協会ホームページで必ずご確認ください。

<https://www.aichi-kangokyokai.or.jp/publics/index/533/>

愛知県

新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 重症患者対応研修

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備え、集中治療が必要な感染患者に対応できる看護職員の養成研修を実施します。

対象

愛知県内に在住または就業する看護職であり、且つ集中治療等において重症患者への対応を行う可能性のある看護職員

受講方法

1. 日本看護協会作成のオンデマンド配信研修
2. 愛知県の新型コロナウイルス感染症に関する講義(10分)をオンデマンド配信研修
【掲載場所】愛知県看護協会ホームページ <https://www.aichi-kangokyokai.or.jp/publics/index/533/>
3. 演習 : 1,2のオンデマンド研修修了後に実施

演習開催

	日程	定員	場所
1回目	2022年8月6日(土)	20名	名古屋大学メディカルXRセンター (名古屋市昭和区鶴舞町65番地)
2回目	2022年8月20日(土)	20名	

受講料: **無料**

申込期間 (1・2回共通) :
2022年5月2日(月) ~
7月4日(月)

申込方法

愛知県看護協会研修申込サイトmanaableより、
必要事項を入力の上お申し込みください。

【申込サイト】 <https://aichi-kangokyokai.manaable.com/login>

申込期限終了後、受講を許可された者に対し登録されたメールアドレスへ委託業者(株式会社Jストリーム)よりオンデマンド研修の視聴用IDとPWを送付いたします。

【申込および演習に関する問い合わせ】

公益社団法人愛知県看護協会

TEL 052-871-0761

mail aikan@aioros.ocn.ne.jp

【研修全般に関する問い合わせ】

公益社団法人日本看護協会

教育研究部継続教育課

ky-keizoku@nurse.or.jp

【軽症～中等症対応研修(自宅療養者用)】

1) 研修目的 新型コロナウイルス感染症軽～中等症の自宅療養者への看護実践のために必要な知識・技術の習得と向上(特に自宅療養者の全身管理、家族への指導、行政等との連携、ICTの活用)

2) 学習目標

- (1) 新型コロナウイルス感染症の特徴及び治療等について看護スタッフに説明できる。
- (2) 標準予防策(スタンダードプリコーション)が実施できる。
- (3) 家庭内及び施設内の感染防止対策の基本をスタッフ及び家族に説明できる。
- (4) 重症化の予兆及び急変時の対処方法をスタッフ及び家族に説明できる。
- (5) 行政や他職種との連携の方法及びICTの活用方法を看護スタッフに説明できる。

3) 開催日時

- 1回目:令和4年6月4日(土) 10:00～16:30
 2回目:令和4年7月23日(土) 10:00～16:30
 3回目:令和4年8月6日(土) 10:00～16:30

4) 対象者 愛知県内に在住または就業する看護職であり、且つ新型コロナウイルス感染症の自宅療養者及び介護・福祉施設での療養者へ対応を行う可能性がある看護職員

※ 老人保健施設、老人福祉施設等を含む

5) 受講料 無料

6) 内容及び講師

時間	講義名および内容	到達目標	講師
10:00～ 10:10	オリエンテーション	本日の流れが理解でき不安なく研修を受ける心構えができる	事務局担当者
10:10～ 10:30	新型コロナウイルス感染症に対する愛知県での医療提供体制の現状及び対策について	1) 愛知県における新型コロナウイルス感染症対策と医療提供体制の現状がわかる(在宅領域を含む)	愛知県 担当者
10:30～ 11:40	新型コロナウイルス感染症の基礎知識 ・基礎知識(病原体、感染様式、潜伏・感染期間、症状) ・臨床経過(重症度判定、臨床所見)及び治療と予防(最新の標準治療、ワクチン)等	1) 新型コロナウイルス感染症の特徴、感染経路、潜伏期間・感染期間等がわかる。 2) 臨床経過及び予防・治療方法がわかる。	武藤義和(公立陶生病院 感染内科部長)
11:40～ 11:50	休憩		
11:50～ 13:00	異変の早期発見に向けた観察のポイントと異変時・急変時の対応 ・バイタルサインと主訴、視診、聴診等のポイントと注意点 ・異変時・急変時の対応等	1) 重症化の兆候が何かを理解し、本人・家族へ指導できる 2) 異変時・急変時の対応が分かる	山端二三子(碧南市訪問看護ステーション所長 在宅ケア認定看護師)

時間	講義名および内容	到達目標	講師
13:00～ 13:50	昼休憩		
13:50～ 15:00	自宅療養者における感染対策 ・家庭内での感染対策(ゾーニング、生活上の注意点) ・患者および家族指導(感染期間、経過観察期間の生活) ・ICTを活用した全身管理・医師との連携 ・異変時の連絡方法(行政、医療機関、その他)	1) 家庭内での感染防止対策がわかる。 2) 患者・家族に対し家庭内感染を防ぐ方法が指導できる 3) 急変時の対応について指導できる。 4) 全身管理に活用できる ICT システムがわかる。 5) 異変時・急変時に連絡調整が必要な機関がわかる。	佐渡本琢也(テンハート訪問看護ステーション管理者 感染管理認定看護師)
15:00～ 15:10	休憩		
15:10～ 16:20	施設における感染対策 ・施設内での感染対策(PPEの使い方、手指衛生、清掃) ・ゾーニングの考え方(トイレやEVの活用方法など) ・廃棄物、食事、洗濯時のリスクと対策 ・異変時の連絡方法(行政、医療機関、その他) ・職員の健康管理(平時との比較) ・メンタルサポート	1) 施設内での感染防止対策がわかる。 2) PPEを正しく使用することができ、スタッフに対しても指導できる。 3) 全身管理に活用できる ICT システムがわかる。 4) 異変時・急変時に連絡調整が必要な機関がわかる。 5) 職員の健康管理の方法がわかる。 6) 職員へのメンタルサポートの必要性がわかる。	中里トモ子(愛知県看護協会 感染管理認定看護師)
16:20～ 16:30	質疑応答		事務局担当者

7) 受講者及び修了者

	申込者数(名)	受講者数(名)
1回目	97	87
2回目	58	47
3回目	37	30

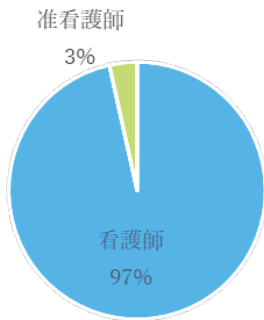
8) 受講者の概要

※ 表・グラフのデータは3回分を合わせて表示

配布数:164 回答数:115 回収率:70.1%

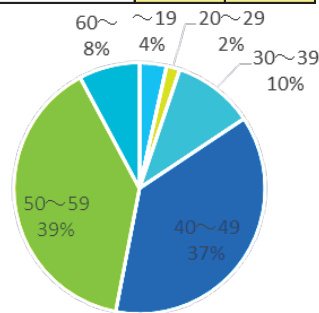
【職種】

職種	人数	%
看護師	111	96.5
准看護師	4	3.5



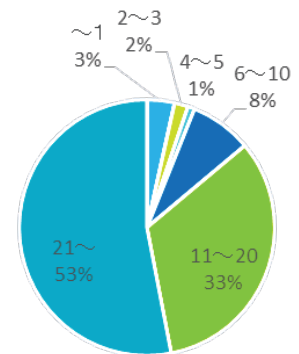
【年齢】

年齢	人数	%
～19	4	3.5
20～29	2	1.7
30～39	12	10.4
40～49	43	37.4
50～59	45	39.1
60～	9	7.8



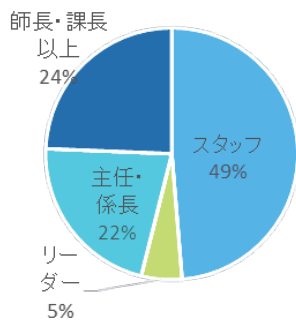
【経験年数】

年数	人数	%
～1	4	3.5
2～3	2	1.7
4～5	1	1.0
6～10	9	7.8
11～20	38	33.0
21～	61	53.0



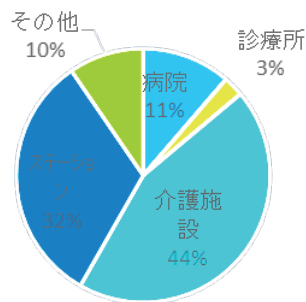
【役割】

役割	人数	%
スタッフ	56	49
リーダー	6	5
主任・係長	25	22
師長・課長以上	28	24



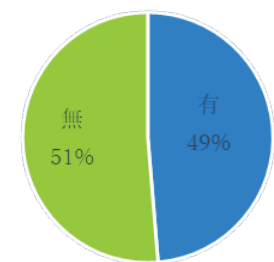
【施設の種類の】

施設種類	人数	%
病院	13	11
診療所	3	3
介護施設	51	44
ステーション	37	32
その他	11	10

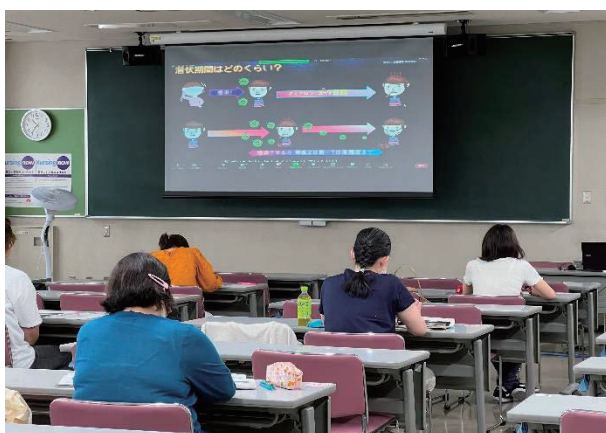


【新型コロナ患者への対応経験】

看護経験の有無	人数	%
有	56	48.7
無	59	51.3



9) 研修風景



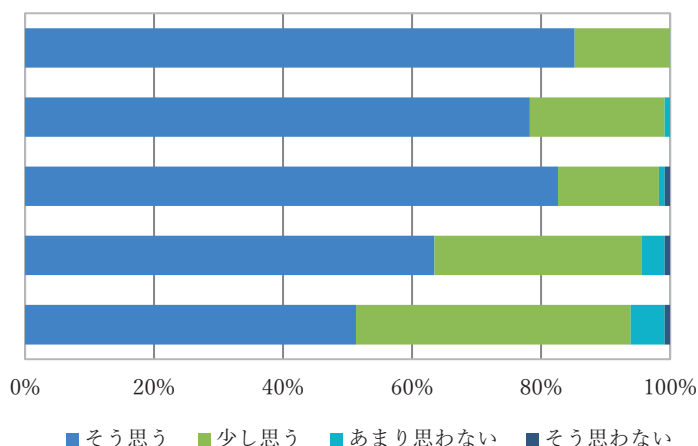
10) アンケート

(1) 受講到達度

人数(%)

設問	そう思う	少しそう思う	あまり思わない	そう思わない	計
1) 新型コロナウイルス感染症の特徴と治療について理解できた	98(85.2)	17(14.8)	0(0)	0(0)	115(100)
2) 新型コロナウイルス感染症患者に対応できる知識・技術について理解できた	90(78.3)	24(20.9)	1(0.8)	0(0)	115(100)
3) 家庭内及び施設内の感染防止策の基本について理解できた	95(82.6)	18(15.6)	1(0.9)	1(0.9)	115(100)
4) 重症化の予兆及び急変時の対処方法について理解できた	73(63.5)	37(32.2)	4(3.5)	1(0.8)	115(100)
5) 行政や他職種との連携の方法及び ICT の活用方法について理解できた	59(51.3)	49(42.6)	6(5.2)	1(0.9)	115(100)

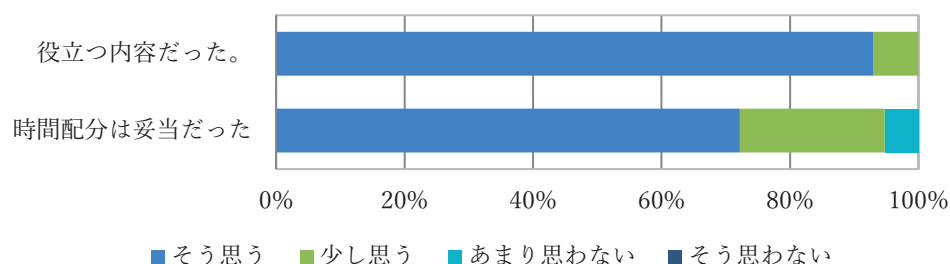
- 1) 新型コロナウイルス感染症の特徴と治療について理解できた
- 2) 新型コロナウイルス感染症患者に対応できる知識・技術について理解できた
- 3) 家庭内及び施設内の感染防止策の基本について理解できた
- 4) 重症化の予兆及び急変時の対処方法について理解できた
- 5) 行政や他職種との連携の方法及び ICT の活用方法について理解できた



(2) 研修会評価

人数(%)

	そう思う	少し思う	あまり思わない	そう思わない	計
役立つ内容だった	107(93.0)	8(7.0)	0	0	115(100)
時間配分は適切だった	83(72.2)	26(22.6)	6(5.2)	0	115(100)



【軽症～中等症対応研修(一般病床・入院待機施設用)】

1) 研修目的

一般病棟、入院待機施設(酸素ステーション等)で新型コロナウイルス感染患者に対応できる可能性のある看護職員を養成する。

2) 学習目標

- (1) 新型コロナウイルスに関する基礎的知識を習得する。
- (2) 新型コロナウイルス感染症患者の軽症～中等症患者に対応できる知識・技術を習得する。
- (3) 酸素療法などについて学ぶ。
- (4) 新型コロナウイルス感染患者の看護について学ぶ。

3) 対象

一般病棟、入院待機施設(酸素ステーション等)で新型コロナウイルス感染患者に対応できる可能性のある看護職員

4) 周知

日本看護協会より、eラーニング受講に向けた周知活動への委託を受諾

・研修チラシの協会ホームページへの掲載

令和4年4月28日(木)より、愛知県看護協会ホームページ上へ次のチラシを掲載

・チラシの送付

5月16日に会員宛郵送

8月1日に期間延長のチラシを再送付

※当初は9月末までの配信予定であったが、令和5年2月末まで延長したため

5) 受講方法及び開催期間

受講方法: 日本看護協会作成の講義をオンデマンドで配信

開催期間: 令和4年5月2日(月) ～ 令和5年2月28日(火)

6) 受講料 無料

7) 内容及び講師

	単元／主な内容	講師(所属等) ※敬称略	目安 時間
1	新型コロナウイルス感染症の基礎知識	大曲 貴夫 (国立国際医療研究センター国際感染症センター長・感染症内科医長)	60分
2	新型コロナウイルス感染症患者の治療と観察ポイント	小倉 高志 (神奈川県立循環器呼吸器病センター副院長・呼吸器内科部長)	40分
3	新型コロナウイルス感染症患者の看護 (緊急性の判断と急変対応、重症化予防、異常の早期発見、酸素療法、患者家族への精神的ケア含む)	杉本 環 (日本大学医学部附属板橋病院)	60分
4	新型コロナウイルス感染症の感染対策	美島路恵 (東京慈恵会医科大学附属病院・感染対策部 感染管理認定看護師)	30分

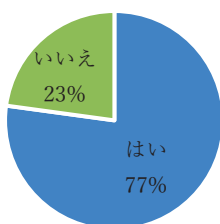
8) 修了者

289 名

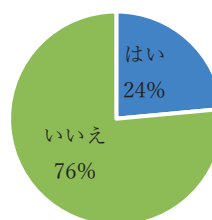
人数(%)

	はい	いいえ	計
新型コロナウイルス患者への対応経験がある	223 (77.2)	66 (22.8)	289 (100)
コロナ療養施設での対応経験がある	68 (23.5)	221 (76.5)	289 (100)
酸素ステーションでの対応経験がある	9 (3.1)	280 (96.9)	289 (100)
一般病棟や入院待機施設で、新型コロナウイルス患者の対応を行う予定がありますか	198 (68.5)	91 (31.5)	289 (100)

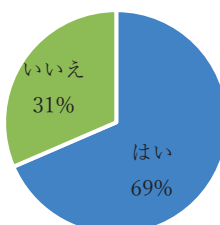
新型コロナウイルス患者への対応
経験がある



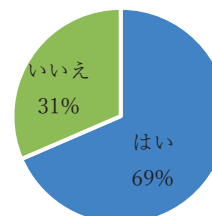
コロナ療養施設での対応経験がある



酸素ステーションでの対応経験がある



一般病棟や入院待機施設で、新型コロナウイルス患者の対応を行う予定がありますか



9) 資料

開催要領とちらし

愛知県

新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 軽症～中等症患者対応研修 (一般病棟、入院待機施設)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備え、軽症～中等症患者に対応できる看護職員の養成研修を実施します。

対象

一般病棟、入院待機施設(酸素ステーション等)で新型コロナウイルス感染患者に対応する可能性のある看護職員

受講方法

1. 愛知県の新型コロナウイルス感染症に関する講義(10分)をオンデマンドで配信
【掲載場所】愛知県看護協会ホームページ
<https://www.aichi-kangokyokai.or.jp/publics/index/533/>
2. 日本看護協会作成講義をインターネットを利用したオンデマンドで配信

受講料

無 料

受講期間

2022年 5月2日 ～ 2023年 2月28日

申込方法

申込期間：
2022年
5月2日～1月31日

下記サイトよりお申込みください

【申込サイト】<https://tacoc.co3.co.jp/users/jna/accountreg.aspx>

【注意】 オンデマンド研修受講前に、愛知県が提供する
新型コロナウイルス感染症に関する情報を
愛知県看護協会ホームページで必ずご確認ください。

【申込・受講に関する問い合わせ】
公益社団法人日本看護協会 教育研究部継続教育課

✉ ky-keizoku@nurse.or.jp

新型コロナウイルス感染症対応看護職員養成事業 軽症～中等症患者対応研修 プログラム

◆ 愛知県看護協会ホームページ掲載

単元／主な内容
愛知県での医療影響体制の状況や対策

◆ 講義(オンデマンド)

章	単元／主な内容	講師(所属等) ※敬称略	目安 時間
1	新型コロナウイルス感染症の基礎知識	大曲 貴夫 (国立国際医療研究センター国際感染症センター長・感染症内科医長)	60分
2	新型コロナウイルス感染症患者の治療と観察ポイント	小倉 高志 (神奈川県立循環器呼吸器病センター副院長・呼吸器内科部長)	40分
3	新型コロナウイルス感染症患者の看護 (緊急性の判断と急変対応、重症化予防、異常の早期発見、酸素療法、患者家族への精神的ケア含む)	杉本 環 (日本大学医学部附属板橋病院)	60分
4	新型コロナウイルス感染症の感染対策	美島路恵 (東京慈恵会医科大学附属病院・感染対策部 感染管理認定看護師)	30分
-	確認テスト	5問	-

3. 新型コロナウイルス感染症対応看護職員離職防止相談事業

1) 目的

新型コロナウイルス感染症に対応する看護職の様々な不安を解消、看護職の離職防止を図り、新型コロナウイルス感染症対応従事が必要な看護職の人材を確保することを目的とする。

2) 対象

新型コロナウイルス感染症関連業務に従事するすべての看護職員

3) 期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日予定

4) 事業内容

新型コロナウイルス感染症に関する業務に従事する看護職からの離職に関する相談窓口を設置し、離職相談を行う。



5) 実績(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ① 相談員を1名雇用して配置
- ② 携帯電話を1台リース契約し、離職相談専用ダイヤルを設置して開設(9時～17時)
- ③ ホームページに事業内容を掲載し周知する
- ④ 相談内容は記録して情報共有する

相談の流れ



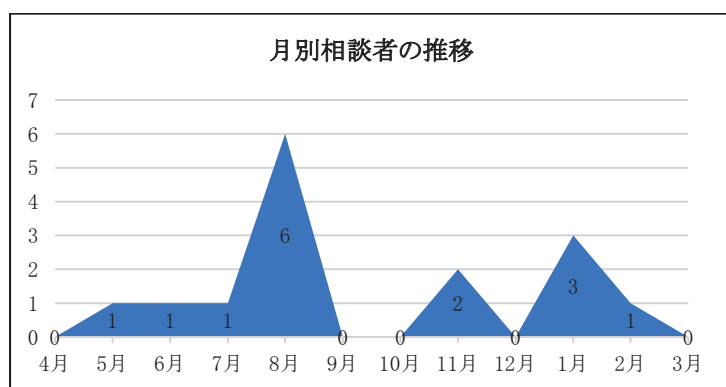
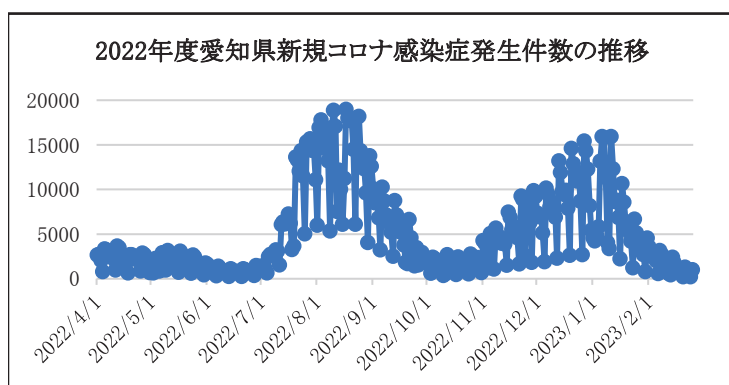
<結果>

1) 相談件数と内容

① 相談件数の推移

- ・相談件数は計15件…電話:7件、メール:7件、対面:1件
- ・コロナ発生件数と比例して、相談件数が推移していることが分かる。
- ・コロナ感染対策については、対応策が浸透してきているため、相談内容は、コロナ感染による職場環境の変化(業務過多等)によるものが多かった。

■発生件数の推移



区分別件数

区分	件数
① 残業	1
② 勤務時間	1
③ 休日・休暇	
④ 夜勤	
⑤ 賃金	
⑥ 子育て、介護との両立	
⑦ 差別や偏見	1
⑧ 健康不安(感染リスクも含む)	4
⑨ ハラスメント、いじめ	3
⑩ その他	5

* 区分は、中央ナースセンターからの規定区分

② 主な相談内容

区分①・扶養内で就業中。コロナで仕事量が増加した。

区分②・コロナ禍で患者数が増加し労働環境が悪化した。

区分⑦・コロナに罹患。感染拡大をさせたとされた。

区分⑧・家族への感染の恐れ。不眠とうつっぽい。

- ・コロナ感染患者が増加し勤務が煩雑になり体調不良
- ・コロナに罹患。再感染への不安。
- ・コロナに罹患(家族も含む)。再感染への不安

区分⑨・新人。業務量が多く、辛いことを言われる。仕事になじめない。

- ・デイで就業。コロナ禍で業務負荷。職場の人間関係が悪化。→数回フォロー
- ・医師からのパワハラ

区分⑩・コロナ対応病床で勤務。業務の煩雑さと患者の安全確保への不安。

- ・納得のいかない部署異動 2 件
- ・コロナ感染拡大しているが管理者からの説明が無い。
- ・デイで就業中。発熱患者が出たが、発生後の対応が不十分。

<まとめ>

- ・電話での相談では、30分～60分話を聞き、抱えている課題や気持ちの整理に努めたことにより、「話ができてよかった」「聞いてもらってスッキリした」との返答が多かった。
- ・転職希望者に対しては、ナースセンター相談員が対応。

- ・施設の対応や労働環境に関するものは「愛看かいぜんサポート」相談員と相談して対応、感染に関するものはガイドラインや感染管理担当者と相談して対応。
- ・24時間専用フォーム(メール)からの相談は、「つぶやきでもOK」としたため、1回のみアクセスが多かった。
- ＊匿名での相談としたため、離職防止につながったかの判断はできていない。
- ＊3月末で窓口は閉鎖されるため、「愛看かいぜんサポート」で継続して実施予定。

参考資料：「看護職の新型コロナウイルス感染症に関する不安について」

ナースセンターの実技研修に来所した看護職にアンケート調査を実施した

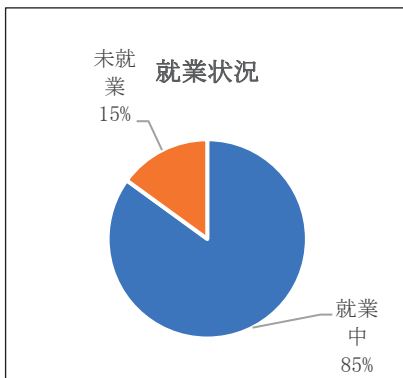
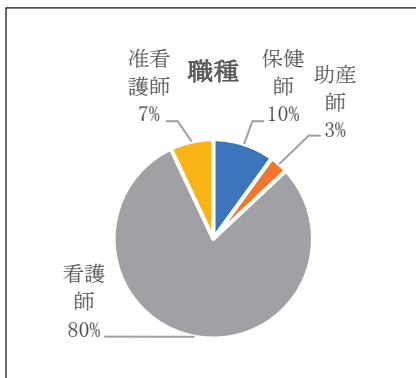
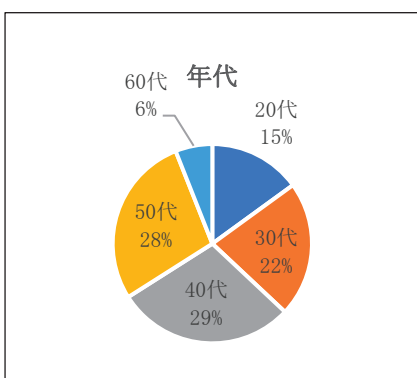
期間:5月25日～1月末

対象:期間中、研修(採血・スキルアップ研修)参加のためナースセンターに来所した看護職 100名

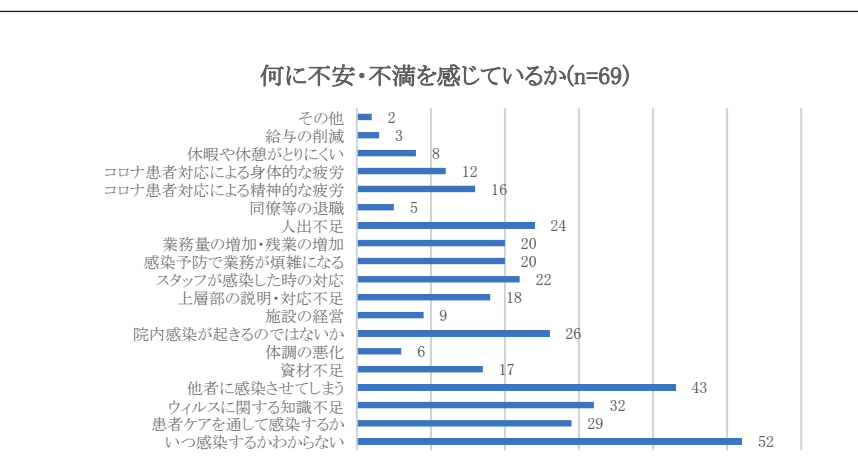
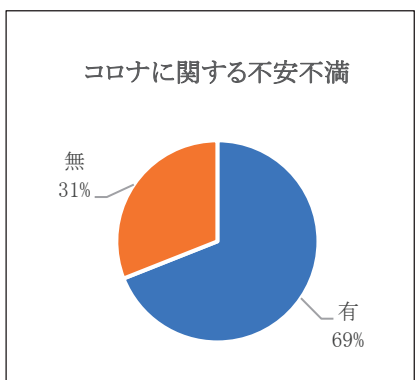
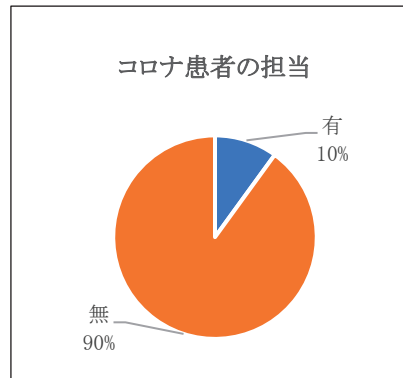
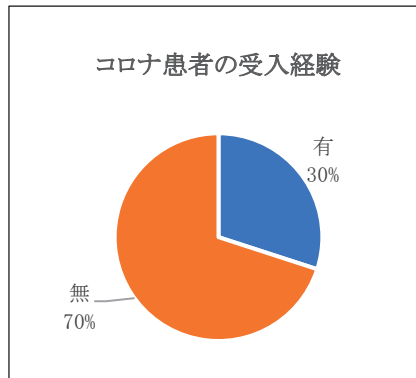
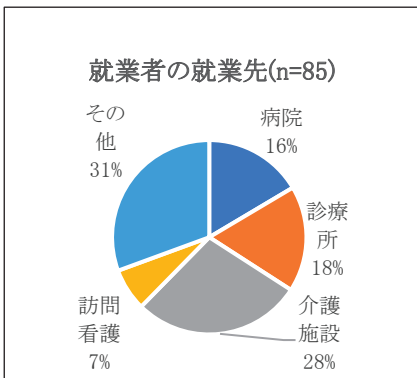
実施方法:研修参加者の内、同意を得られた方にアンケートを依頼

主な内容:年代、免許、就業状況、コロナ患者経験の有無(施設・自分)、不安の有無と内容

① 回答者の概略



② コロナ関連の質問



- ・研修の参加者の内、病院就業者は 16% (14 人) のみのため、実際にコロナ患者の受け入れや担当経験が少ないという結果であったが、「コロナに関する不安・不満」があるのは 69% と高値であった。
- ・「何に不安・不満を感じているか」では感染に対する不安が上位を占めていた。資材不足や人出不足、業務過多なども高値であった。

4. 新型コロナウイルス感染症対応潜在看護職研修事業

1) 目的

新型コロナウイルス感染症対応に従事可能な看護職の人材確保を目的に、新型コロナウイルス感染症対応に従事した潜在看護職等に対し、継続したスキルアップ支援を行う。

なお、本事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、不足している看護職員等の人材を確保し医療提供体制を維持するための支援を目的とするため、日本看護協会との契約を締結の上、実施する。

2) 対象

- ① 潜在看護師
- ② 新型コロナウイルス感染症に関連する業務へ協力意向を示している e ナースセンター登録者
- ③ 復職を希望しているブランクのある看護職

3) 期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

4) 事業内容

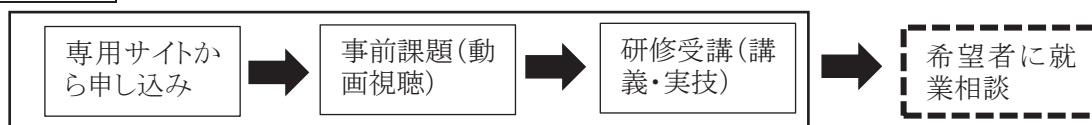
- ① 対象となる看護職に、最新の看護知識、技術研修を実施する。
- ② スキルアップ研修内容の抽出と、該当する教材の選定
- ③ 技術演習を行う会場を整備する
- ④ 研修計画及びシミュレーション研修の指導案の作成
- ⑤ ホームページに研修開始の案内と、研修申し込みフォームの開設



5) 実績

- ・開催日時: 5月9日より開始・毎週月・金 11時30分～16時
- ・対象: 看護職(就業中・未就業に関わらず)
- ・研修プログラム
 - 事前課題: 医療安全・感染対策の基礎、採血・吸引の動画
 - 研修当日: 講義「新型コロナウイルス感染症の看護」
 - 実技 防護具の着脱、採血・吸引、まとめのテスト
- ・担当者: 研修担当臨時雇用職員2名(プラチナナース)

研修の流れ



研修実行のプロセス

時期	項目	内容
R4.2	中央ナースセンターからの告知	・各県でコロナ関連就業希望の登録者に対して、「スキルアップ研修」(酸素ステーション、軽症者施設等コロナ関連の施設への就業のための研修)のポスターが配布 (※愛知県登録者 1900 名)
R4.3	補助金申請	申請と予算請求(※令和4年度(令和3年度からの繰越分)新型コロナウイルス感染症対応看護職員等の人材確保事業費補助金)
R4.4	開催準備	・開催要項、研修プログラムの作成 ・担当者の雇用(プラチナナース) ・研修用モデル・備品の購入、研修室の準備 ・申込専用サイトの作成と開催要項の発信→募集開始
R4.5.6 ～	研修開始	※感染対策のため1回に4人までとし、集団での食事を避け、短時間にするため、事前学習をプログラムに追加 ※幅広く研修できるように週2回の開催 ※希望者には相談員が就業支援を実施
開催中	情報発信とまとめ	・参加者へのアンケート実施(理解度、満足度、就業意向確認)と就職相談の実施 ・「スキルアップ研修たより」の発刊 8月、12月(アンケートの結果、参加者の声等)
R4.12	研修の振り返りと修正	下記
R5.1.23	追加コースの開始	Aコース(月):高齢者施設コース Bコース(金):現状コース

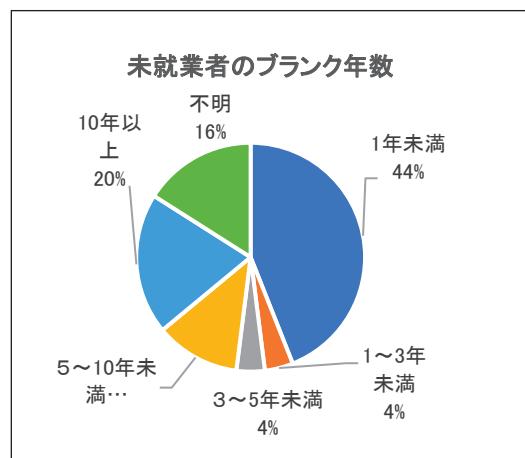
研修の振り返りと修正→新コース追加

① ナースセンター経由の研修後のコロナ関連の就業先がない

・愛知県では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、軽症者等の宿泊療養施設を **11 施設(2,332 室)** 確保し、10 施設(2,274 室)で運営しているが、ナースセンターの求人登録はない。

② 参加者の内未就業者は5年以上の長期離職者が多い。

・長期離職者は医療行為の多い、病院や診療所への就業は困難であることが予想されるため、復職に際しては、高齢者施設等などの介護施設への就業支援が必要。



1月23日～追加コースを実施開始

追加コース

- ・現コース(Bコース)に追加して、高齢者施設対象のスキル獲得の研修コース(Aコース)を追加することとした。
- ・Aコース:高齢者施設に必要なスキルが獲得できるコース

事前課題:同様

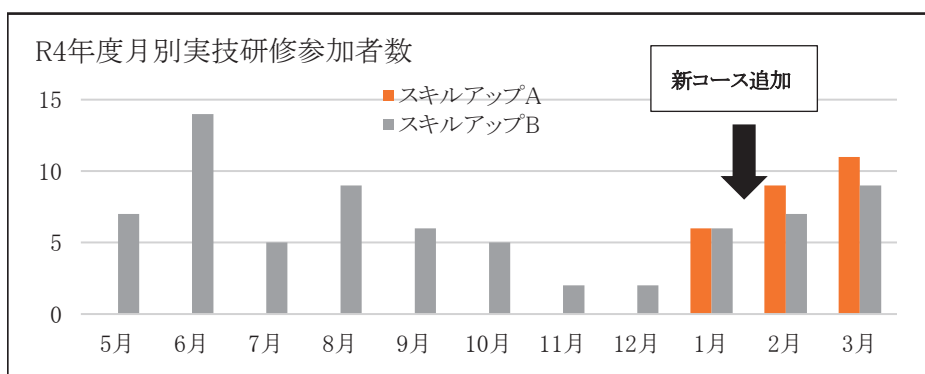
研修内容:講義「認知症の看護」「高齢者施設の看護」

実技 防護具の装着、採血・点滴、経管栄養・胃ろうの管理

*コロナ感染症のクラスター発生は高齢者施設で多いため、防護具の着脱については継続して実施

【結果】

1)参加者 5月9日～3月31日 計延べ98名(*重複無の実人数89名)



2)未就業者の就職状況

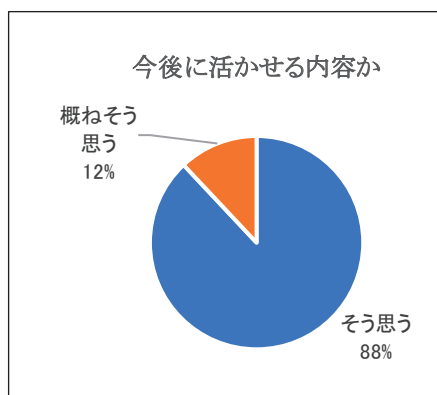
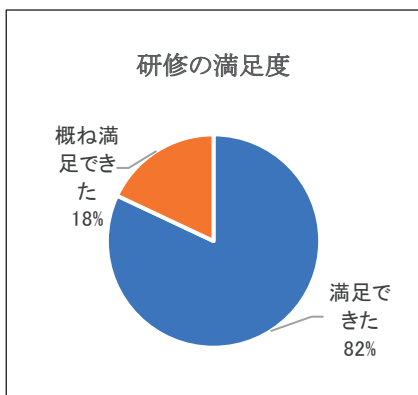
- ・未就業者59名の内就職者27名(就職率46%)

3)今後の予定

- ・補助金の終了後も潜在看護師の復職支援事業として、継続して実施していく予定。

参考資料:参加者アンケートから

①終了後のアンケート結果



②参加者からのコメント

実践に活かせる内容

- ・コロナ病棟で働く看護師の観察ポイントも勉強になった。できていない手技を根拠を持った説明をしてもらい理解しやすかった。今回学んだ事を繰り返し復習し、日々の実践に活用したい。
- ・実践的でとても勉強になった 他のナースにも勧めていきたい
- ・研修したことで今の自分に足りない事が明確になった
- ・手技に不安があったので大変良かった。丁寧な指導で良かった
- ・自分の間違っただけの思い込みや悪習慣に気づくことができました。少人数の研修で しっかり詳細まで学ぶことができ安心感に繋がりが良かった。点滴など他の研修も 希望します
- ・この経験を現場で活かせるように頑張ります
- ・とても解りやすい講義でした。採血の実技もただ採血手技を行うのみでなく説明から確認まで 一連の流れを振り返ることができた。今までの経験談もリアルに取り入れられ 臨場感あふれ、緊張感を持ち取り組むことができ良かった。

ブランクに対する不安の軽減

- ・参加することを決めるまでに悩み、実際研修に参加することにも不安がありました。質問しやすい環境で楽しく学べ、参加して本当に良かった、頑張りたいと思った
- ・復帰するにあたり不安を感じていたが、実際技術演習を行って解消できた
- ・ブランクが長く実技が不安でしたが、安心して取り組める声掛けで不安が軽減した
- ・20 年以上のブランクがあり、知識、技術に自信がなく参加しました。以前と現在との違いを丁寧に教えて頂き大変勉強になりました
- ・久しぶりの看護実技で緊張しましたが、身体が覚えている部分もあることが実感出来た